

2023年3月17日(金)

33期生の門出を祝して

2020年4月「新型コロナウイルス感染症非常事態宣言」が発出の中で入学の時を迎えた33期生が、これまでに経験したことのない厳しい制約と規制の下での3年間の学校生活を乗り越え、本日(17日)、新たな目標と夢に向かって旅立って行きました。

中学締めくくりの2020年3月初旬のニュージーランド修学旅行からの1日繰り上げ帰国に始まり、高校2年生冬の先島修学旅行も、ナイト体育祭も、校内関係者だけの12月の聖祭(文化祭)などを何とか切り抜けて実施することができた幸運な学年でした。これらの急な予定変更工夫とアイデアで見事に対応し、乗り切ることができたのも生徒のレジリエンスと保護者の皆様のご理解ご協力のお陰です。心より感謝申し上げます。

聖生らしく明るく人なつこい33期生に向けて、私らしく式辞というより「最後の授業」を行うことで無事に送り出すことができました。授業では、有名なサミュエル=ウルマンの「青春の詩」と『レ・ミゼラブル』の劇中歌「民衆の歌」を手がかりに、デジタル時代の中だからこそ「思考する武器を持とう！」という趣旨で話をしました。その宿題の答えを携えて、ぜひ母校に戻ってきてほしいという期待と願いを込めて…

このような特性を持った33期生に相応しく、明るく穏やかで感動深い卒業式になりました。式典後は、聖ヶ丘の伝統に基づき、改めて私から生徒一人一人に卒業証書を手交しました。その際、コロナ禍を乗り越えたことへの労いと祝福を込めて、私が手作りした「お菓子セット(桜クッキー、抹茶チョコタルト、いちご風味のカップケーキ)」を添えて手渡しました。

また、4日間掛けて手書き作成した2m×2mの「等身大の卒業証書」をグラウンドの脇に飾り、フォトスポットとしました。多くの皆様に喜んでいただき、私としても嬉しい限りです。



33 期生 106 名の前途洋々たる輝く未来に幸多かれと祈念し、門出を祝うことができました。関係の皆様には感謝申し上げます。

校長 石飛 一吉